

＜落とし込みダブルギャフ、シーバス青物取り込みシステム（ニューモデル）の取り扱い説明書＞

—型式：WG 9 1 6 7 S—

「ギャフ」の名称で特許が取得できた日本で唯一の製品
高場からの単独ギャフ掛けを実現

—落とし込みダブルギャフ、シーバス青物取り込みシステム（ニューモデル）仕様

—型式：WG 9 1 6 7 S

寸法（設計値）

ギャフ（カエシ付き）：軸径9mm、フック軸径5.3mm、全長17cm、全幅8.6cm、フトコロ6cm

ロープ：径5mm×長さ13m（ナイロン編みロープ）

システム総重量：420g（うち、ギャフ自重195g）

適用範囲：1.5kg～16kg（最適範囲2kg～10kg、耐強度30kg）

適用高距：2（餌釣りは3）m～12m

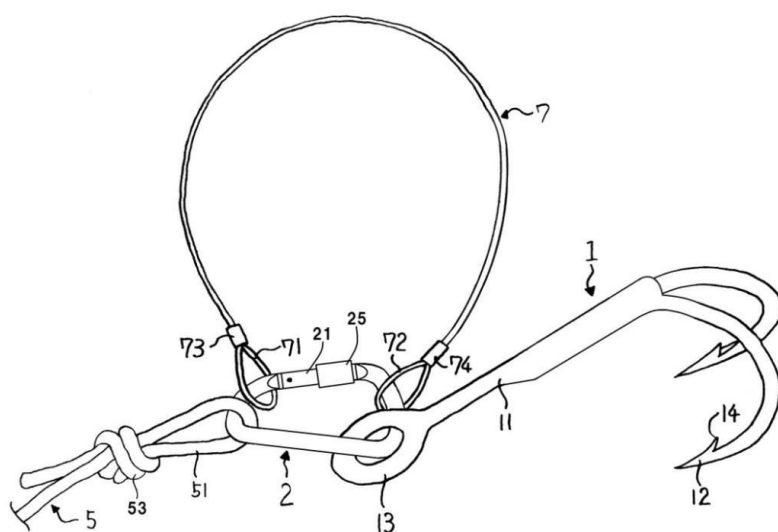
材質：ステンレス（フック部—高強度特殊鋼）

対象魚：大型シーバス、中型青物、中型シイラ

製法：ハンドメイド

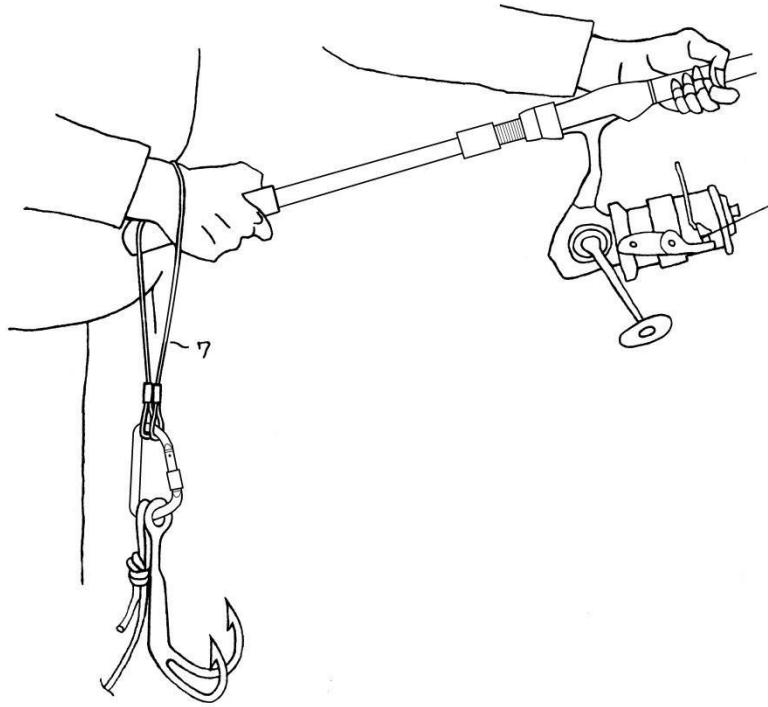
補足説明：本品はSWルアーでの使用、ランガンに最適な構成です。餌釣りもちろんOKですが、カゴ釣りは小型カゴのみ可。ライトタックルによる堤防からのライト～ミディアムルアーには此れで充分です。本品の使用により、高さが高いからと言って、ぶり上げ目的で、重いロッドを一日中振り続ける必要は無くなります（→疲れる）。5kg以上をメインターゲットとした、ヘビータックルによる本格的SWルアーには別途用意の中軸青物用を推奨（60～80cm 狙いはこちら、メーター級狙いは中軸青物用）。本ニューモデルは、刺さりを向上させる為、フック軸径を細くし（5.3mm）、又重量をアップ（195g）して引き刺す力を高める事とし、主軸を太くしました（9mm）。

図 1



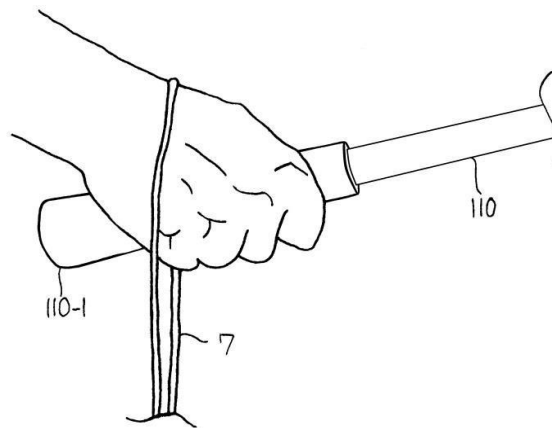
＜図 1 はシーバス青物取り込みシステムの全体図を示す＞

図 2



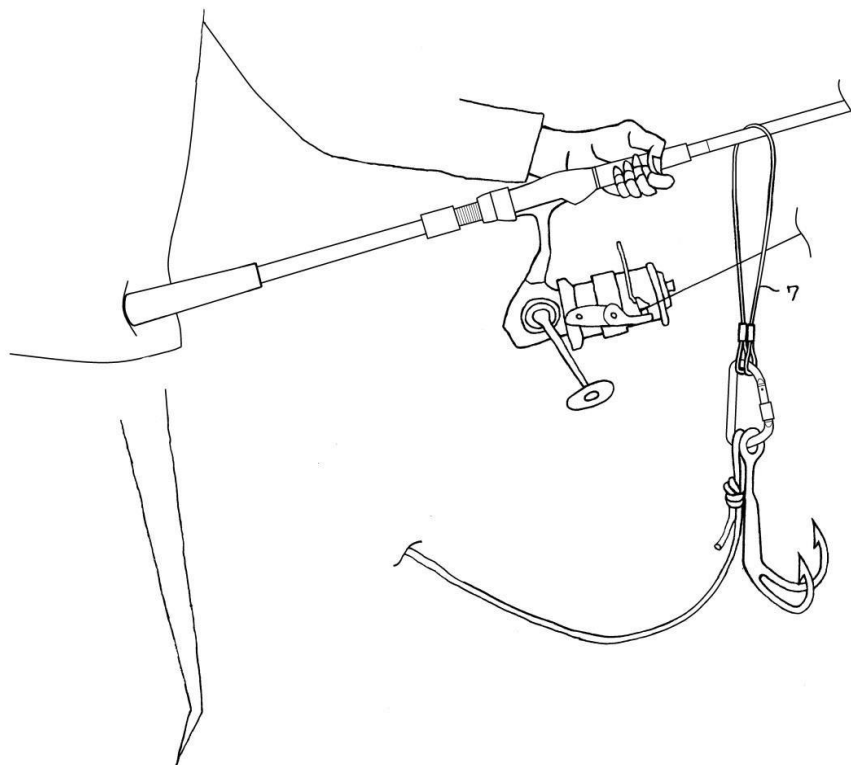
<図 2 は、竿尻通し方式を基本とする本システムのループ体（7）を手首に掛け、取り付けを開始する状況を示す>

図 3



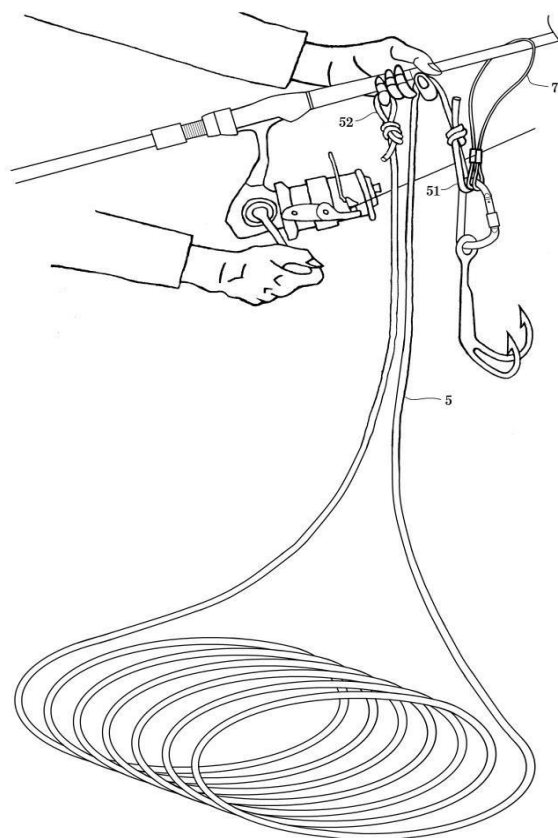
<図 3 は、ループ体（7）を手首に掛けたまま竿尻を腹部から離し、手首を起す事により、ループ体が元竿上に通った状況を示す>この後、再び竿尻を腹部に戻す。

図 4



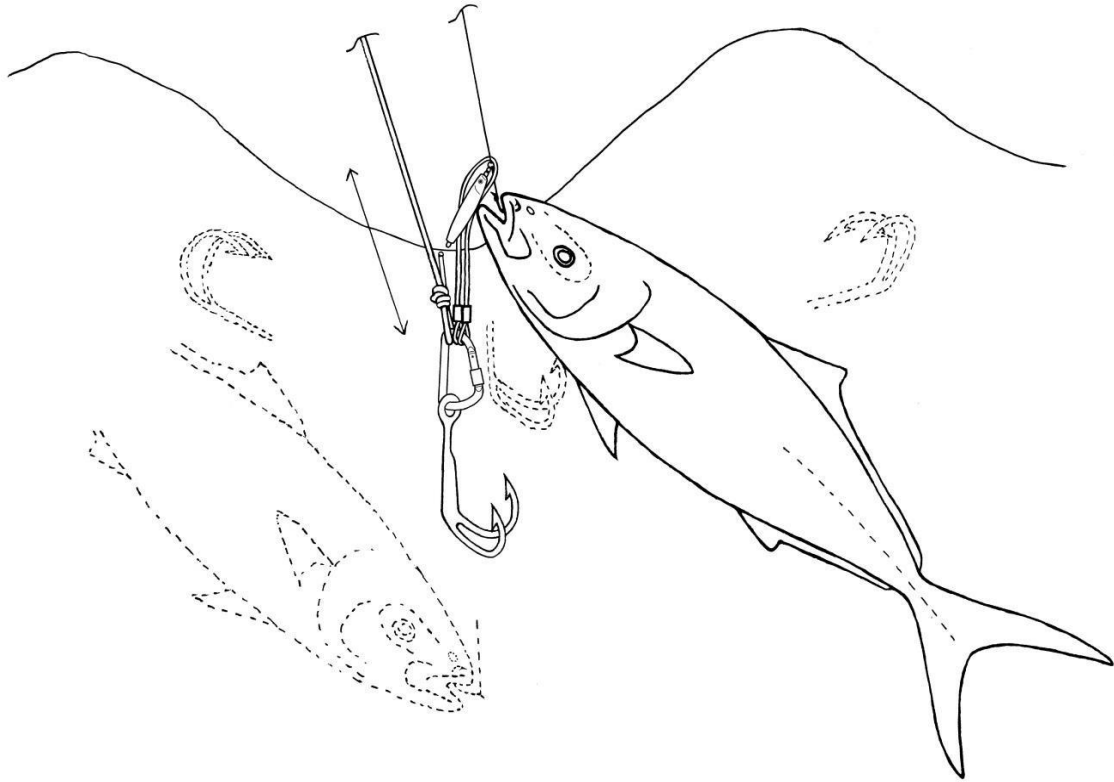
＜図 4 は、元竿上に通ったループ体（7）を前進させ、リールを越えてその前に出した状況を示す＞

図 5



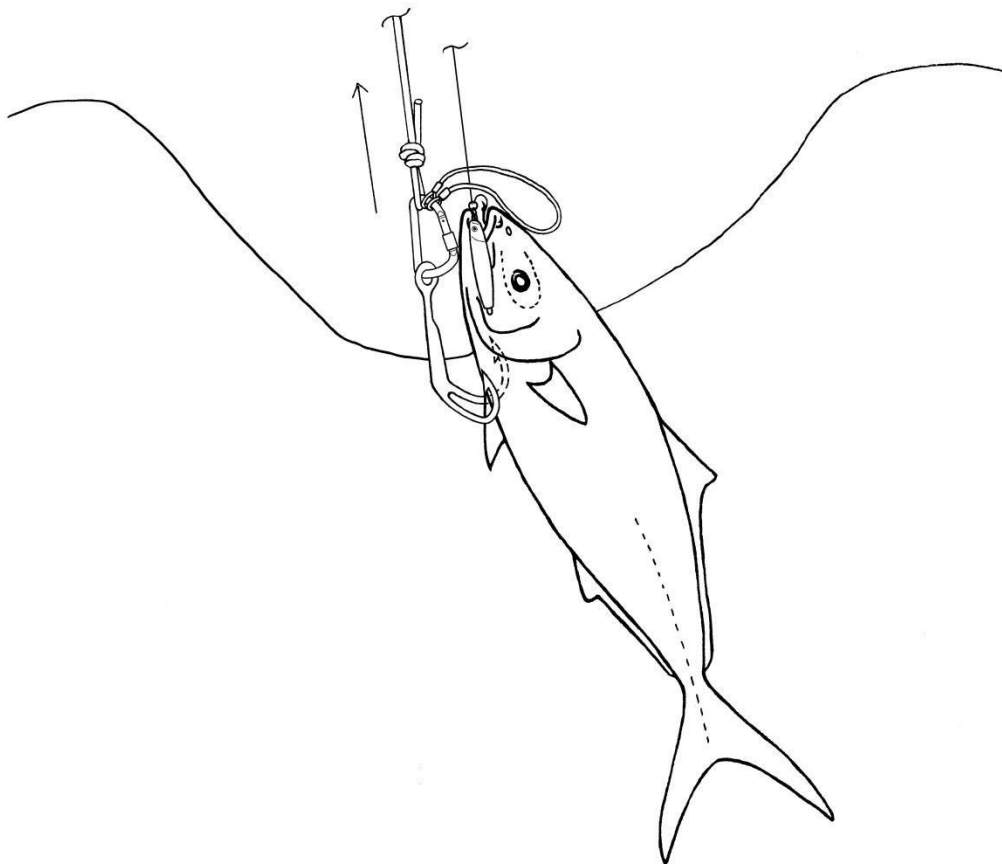
＜図 5 は、落とし込みの準備が完了した、スタンバイ状態を示す＞ギャフを引き付け、ロープを左手の人差し指で押さえ、他端のループ（52）を、小指に掛ける。

図 6



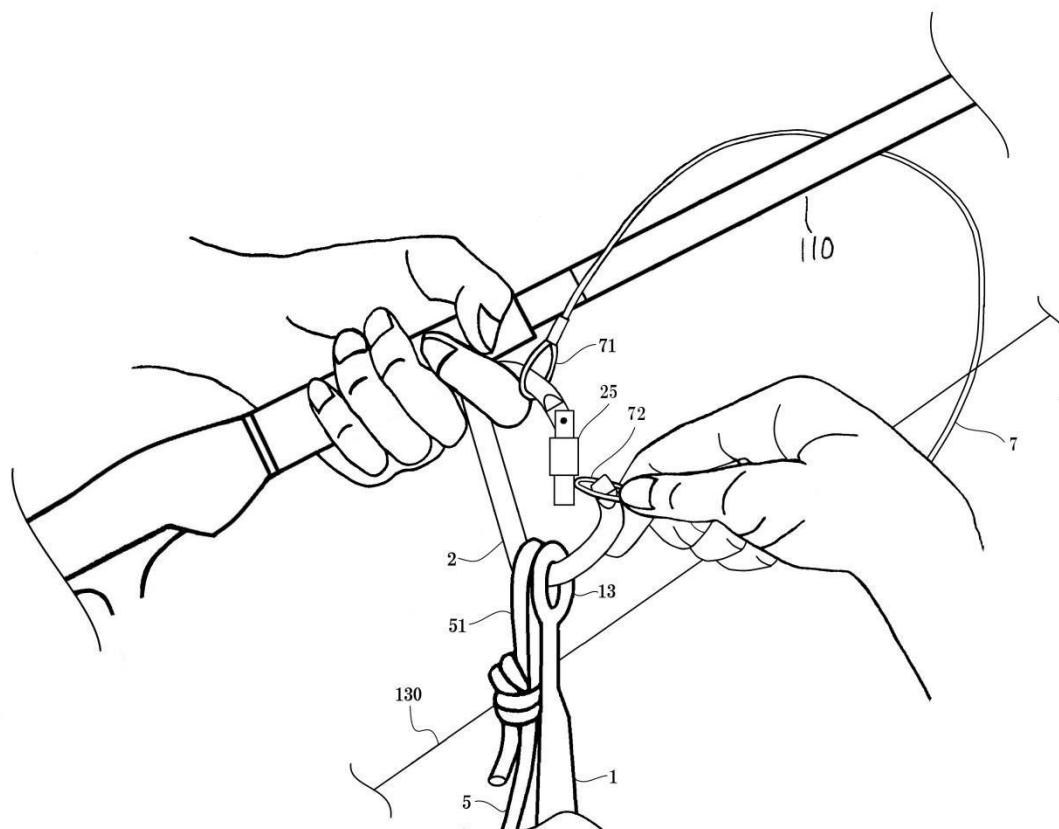
＜図 6 は、フッキングのメカニズムを示す＞ロープを掴んだ手を上下させ、ギャフを揺り動かしてやると、程無くズシリと重みが掛かる。

図 7



＜図 7 は、重みを感じた手で、強くロープを引っ張る事により、ギャフが食い込んだ状態を示す＞食い込みがカエシ迄到達すれば、もはやギャフは外れない。

図 8



<図 8 は、リールが大きくて、ループ体 (7) がリールを越えられない場合に行う、巻き付け方式を示す> 竿を持つ手の人差し指にカラビナ (2) を掛け、リールの前側で巻き体 (7) として、道糸 (130) ごと竿 (110) に巻いてやり、他端の小ループ部 (72) をカラビナ (2) に掛け、安全環 (25) を回し、ロックする (竿を立てたまま、片手で可能)。

此れにより、図 4 に近似の状態になる。

1) 序文

本落とし込みダブルギャフは高場からの単独取り込みを高い確実性で可能にするものです。本シーバス青物取り込みシステムは、ガイドの役目を果たすループ体 7 を竿尻から通してリールの前に出し (リールが大型でループ体 7 がリールを通過できない場合は、ループ体 7 の他端 72 を事前に安全環付カラビナ 2 から外しておいて、取り込み時にリールの前側で、巻き体として道糸ごと竿に巻いて、カラビナ 2 に掛けてやる巻き付け方式を実行・・・ショアジギング用中～大型スピニングは概ね通過できます・・・GT、マグロ用特大リールは別)、その後竿伝い、道糸伝いにギャフを落とす使い方を基本とします。この点に於いて、道糸を手で掴んで道糸にガイドを掛ける従来方式とは基本的に異なります。本ギャフシステムの最大の利点は、単独での取り込みに於いても、竿を立てた状態を維持したまま (=ラインテンションの喪失無く) ギャフのセッティングを完了出来る事であり、且つ、リールのドラッグが機能しない状態を一時的にも引き起こす事無く (=高いサージテンションの発生無く)、ギャフのフッキングに到達出来る事です。ギャフを落とす時には竿先を下げますが、此の時はリールを巻きながら下げる訳ですから、ラインテンションの喪失は起こりません。従来方式 (ガイド道糸取り付け型ギャフ) で、ラインを手で掴めば、5m 有る竿の弾力が無くなるわけですから、魚が手前に突っ込んだ場合等に、ラインテンションの喪失は避けられません。又、この状態では既に竿は横に置かれている訳ですから、リールのドラッグは機能しません。この時、魚が向こうに引っ張れば、高いサージテンションの発生は避けられません。此れに対して、本ギャフシステムでは、単独であっても、竿の弾力とリールのドラッグ機能のこの二つを同時に維持したまま (=魚のコントロールを維持したまま)、ギャフのフッキングに到達できます。

此れにより、本落とし込みダブルギャフとそのシステム、及びギャフ掛け方法 (取り込み方法、やり方) は特許が認められました (特許全八項目、特許第 4988949 号及び特許第 4988970 号)。其の詳細は特許庁ホームページの特許電子図書館 = J-PlatPat で確認できます (「落とし込みダブルギャフ」は登録商標、登録第 5540603 号)。

2) 基本説明

本品は、システムの威力が絶大である為、フックの本数や針先の張り出しに頼る必要がありません。此れにより、フックの本数を二本に抑える事ができ、且つ針先を内側に向ける事が可能となりました。此れは二点の効果を実現します。第一は、引っ張った時のロープの方向と針先の方向が略一致する為、重みを感じてロープを強く引っ張る事により、ギャフをカエシ迄深く引き刺す事ができます。第二は、針先が内側を向いた事により、針掛かりしていない残りのフックの、引き上げ途中に於ける、障害物への引っ掛かりの問題を軽減します。磯だけでなく、堤防表面も凹凸が激しいです。本ギャフは引上げ時にはリングが起きますから、針先も起き、表面から離れます（＝浮きます）。小さな凹凸は擦るのではなく回避できます。磯での使用も可能となりました。本ギャフシステムは掛けるのはシステムの力で掛け、障害物の回避はギャフの構造の工夫で行います。

本品は、大型シーバス、中型青物、中型シイラ等を主体として、1. 5 k g ～ 1 6 k g の魚を対象とします（最適範囲 2 k g ～ 1 0 k g、耐強度 3 0 k g）。カエシ迄刺されば、抜けません。ギャフ及びシステムの耐強度は 3 0 k g ですが、ロープ径が 5 mm ですので、引上げ限界はで約 1 5 ～ 1 6 k g です。ロープ径は最も使用頻度が高いと思われる 2 ～ 3 k g から 6 ～ 7 k g の魚に合わせたものです。ギャフ自体の耐強度は 3 0 k g ですが、強度は熱による組織変化により、個体差があり、本品はこの数値に関して、如何なる保証も致しません（参考値として留意し、壊れない範囲で使ってください）。本品は約 5 5 c m から約 9 0 c m の魚に適します。フトコロ寸法とガイド 7 端からフック 1 2 位置までの長さ寸法が魚のサイズにマッチングしている事が高効率なフッキングを実現します。適用範囲を超えた魚であっても、最終的には必ずフッキングしますが、前記フトコロ寸法及び長さ寸法と魚のサイズとのマッチングが効率的なフッキングを実現しますので、5 ～ 6 k g 以上の魚が高確率で狙える釣りを行う場合は、別途用意の中軸青物取り込みシステムを準備されることを推奨します（4 k g 位迄はぶり上げ、それ以上はギャフで、といった人は、別途中軸青物用がベストマッチ）。

従来法で、5 m を越える高場から 5 k g を越える大物を、単独で（自分一人で誰の手助けも無く）取り込む事は、一タモであれギャフであれ一、至難の業でした。本発明の落とし込みダブルギャフは大物の高場からの単独取り込みを高確率で可能にするものです。本ギャフシステムでは、十分に離れた高く安全な場所から、魚にギャフを送りつけ、フッキングさせ、約 1. 5 k g から約 1 6 k g までの魚を足元まで上げることが、完全単独で、高い成功率でできます。然も高い携行性（持ち運び易さ、収納の容易さ、軽さ）を有します。本ギャフシステムは、一人である事、距離がある事が、更には魚が大きい事ですら、障害にならず、安定した姿勢を維持したまま、容易且つ確実にフッキングに到達できます（通常 1 0 秒から 2 0 秒程、長くても一分以内）。本ギャフシステムの使用方法が知られるにつれ、大型長柄タモはなくなる運命にあると言えます。

3) 事前準備（ロープ扱き）

出荷時点でロープ 5 の両端に作ったループの片方 5 1（一端側）をカラビナ 2 に掛けてあります。輪にしたロープを解いた時点で、キンク（よじれ）が発生している様であれば、キンクを解消しなければなりません。キンクが発生しているのに其れを放置したまま釣りを開始する事は、タモを組み立てないまま釣りを開始することに等しく、致命的です。キンクが目で見えなくても輪を解いたままのロープはストレスが掛かっている所以以下に述べる「ロープ扱き」を必ずやる必要があり有ります・・必須。ギャフを落とす時には片手は竿を支えている訳ですから、残りの片手しか使えません。ギャフを落とす途中でロープが纏れてしまったら、如何にもなくなってしまう。纏れはキンク（内在するストレス）が引き起こします。ロープギャフを使いこなす事はロープを使いこなす事と同義です。ロープには撚りロープと編みロープとがあり、本品は編みロープです。編みロープには撚りは入っておらず、本来、キンクは発生しません。然しながら、ロープは持ち運びする時には通常、輪にして持ち運びます（左手人差し指と親指の間の股と肘に巻きつければ作業が早い）。此の輪にする時に、巻く毎に捻ってしまっているのです（捻るつもりがなくともそうなります）。其のまま、両端を持って引き延ばせば、ロープ内に多数の捻じれ（＝ストレス）が存在する事になります。此れがキンクを引き起こす要因となります。此れを解消するには次の様にします。ロープ端のループ 5 1 をカラビナ 2 から一旦外し、両端の結び 5 3 を解いた上で、ロープ端を、手の甲を上に向けた状態で、左手で持ち（手刀側がロープ端）、その横で親指同志がくっ付く形で、右手でロープを軽く持ちます。左手でロープを掴んだまま、ロープを持った右手を水平方向右に大きくスライドさせます。

次に左手を右手横に持ってきて、再び左手でロープを掴み、右手を再び右に一杯までスライドさせ、此れを端までやります。右手をスライドさせる時に右手首を向こう側に少し捻りながらやると尚良いです。今度は反対側の端から同じ事をやります。此れを 2 ～ 3 回（又は 3 ～ 4 回）やります（→ビデオ使用方法 22、技術編 1 2 : 5 5 ～）。此れでキンク（よじれ）は完全に取れます。この作業を、「ロープを扱（しご）く」と言います。此の「ロープ扱き」はロープギャフの使用前に毎回必ずやらなければならない必須事項であり、これをやらないと、ロープがゴチャゴチャに纏れ、ギャフを使う前にロープを使いこなせず、ロープギャフが機能しない、という事になり、「ロープギャフは難しい」と言って投げ出してしまいます結果になりかねません。両端に再びループ（5 1, 5 2）を作り、その片方 5 1（一端側）をカラビナ 2 に掛け、安全環 2 5 をロックします。

<ロープの配置1>重ねずらし方式：他端側（ギャフ1とは反対の側、52）から、ロープ5を輪に巻き、他端側（52）が下に位置し、ギャフ1側が上に位置する様に、重ねながらずらして（図5参照）、ループ体7が手首に掬い取りやすい状態で、足元近くの邪魔にならない場所に、注意を持って配置します（ロープ他端は横に出す＝蛇がとぐろ状態から動きだす姿勢→頭がギャフ、尾っぽが他端52）。

ロープの長さは13mです。釣り場の状況（＝足場の高さ）はそれぞれ違いますから、ロープ5が長すぎる様であれば、余分な長さの分は、他端側ループ52から3～40cmの所で、長さ10～15cmで折り返し束を作り、その部分を輪ゴムで束ねておく事もできます。

<ロープの配置2>ジグザグ方式：上記の重ねずらし方式（最後は他端52を小指に掛ける）の他に、此のループ52にカラビナを掛け、此れを足元に置いたクレー等荷物の荷物にかけ、此处から出たロープをジグザグに整然配置して（HPシイラビデオ参照）、ギャフ側からロープが順次出ていくようにして、落とす時は、手の中を滑らせて、落す方法もあります。此方の方がシンプルで分かり易いかもしれません。本ギャフビギナーにはこれを推奨します（→ビデオ使用方法22、技術編14：16～）

以上で準備は完了です。この作業は慣れれば2～3分程で出来る筈です。要するにロープギャフの事前準備とは輪を解いておけばよいという事ではありません。

4）使用方法（特許） →ビデオ使用方法22、技術編参照

本シーバス青物取り込みシステムは、中大型リールによるソルトルアーを対象として（小型カゴ釣り可）、ガイド両端（71、72）をカラビナ（2）に掛け、其れにより、ループ体（7）を完成させ、此のループ体（7）を手首に掛け、手首から元竿上に移し（＝竿尻通し方式）、リールの前へ出し、竿伝い、道糸伝いに落す使い方を基本とします。此の竿尻通し方式で使えるリールは中大型リール迄です。ループ体（7）の正確な内周は、カラビナ内長寸も含めて、約52cmです。購入前に自分のリールをループ体（7）が通過できるかどうか、確認したい場合は、紐で52cmの輪を作り、竿にリールをセットして、この紐が通過できるかどうか試す事により、確認できます。リールが大きくループ体（7）がリールを通過できない場合は（＝ショアジギング青物用スピニングは概ね通過可、GT マグロ用特大リールは不可）、ガイド（7）を巻き体としてリールの前側で道糸（130）ごと竿（110）に巻きつける方法（＝巻き付け方式）を実行する事になります。此れに付いては、次項で詳しく述べておりますので、そちらを参照してください。

①魚を寄せた後、竿尻110-1を腹部に位置させ、左手で竿110を支え、右手でリールハンドルを掴んだ基本姿勢から、腰を少し下げ、右手をハンドルから離し、足元近くに事前配置した本ギャフ1のループ体7を右手首に掛ける。その状態で竿尻110-1近くを掴み（図2の状態）、竿尻を腹部から外す。

②平面視（上から見た状態）腕方向と竿軸方向とを一致させながら、手首を起こすと、ループ体7が竿尻110-1を通過する（図3の状態）。

③その状態で、竿尻110-1を元の腹部に戻す。

④此れで、ループ体7が元竿110上に通った。そのままループ体7を前進させ、リールを越えてその前に出す（図4の状態）。此れで竿を立てた状態を維持したまま、単独でギャフセットの取り付けは完了した。リールの通過は、ハンドルを手前側に位置させ、先にハンドルを通過させた上で、次に本体を通過させればスムーズに行く。

リールの通過時はループ体（7）の小ループ部の片方（72）はカラビナ（2）の安全環（25）の下側に位置させ、其れにより、ループ体（7）内周寸法+カラビナ内長手寸法（即ち輪が大きい状態）で通過させ、通過した後は、前記片方（72）を安全環（25）の上側に移動させ、其れにより、内周寸法のみ状態（輪が小さい状態）を作る（→小型の魚が輪の中を通過するのを低減する事ができる）。

（以下解り辛いですが、<重ねずらし配置方式>と<ジグザグ配置方式>とがあり、本ギャフビギナーには現在<ジグザグ配置方式>を推奨→ビデオ使用方法22、技術編14：16参照）

ループ体7をリールの前に出したら、カラビナ2から出たロープ5を、竿110を持った左手の人差し指に掛け、引き付ける（ループ体7は竿から浮いた状態）。

右手でロープの他端（ギャフの反対側）のループ52を掴み、其のループ52を、竿110を持つ左手小指に受け渡す（図5参照<重ねずらし方式>、面倒臭い場合はこれを省略→ジグザグ方式＝他端52を何処かに掛けておく）してもよいが、ロープは片手の中を滑らす。此れで、落とし込みの準備は整った。落とし込みは、フリーフォールに近い形で一気に落とした方がよい。前記左手人差し指で引き付けたロープ5を解放し、其れにより、ギャフに勢いをつけて、竿上を滑り落とさせ、ラインガイドを通過させるのがよい。右手でリールハンドルを回しながら、竿先を下げ、ギャフを竿伝い、ライン伝いに一気に落とす（又は右手でロープを振ってギャフを竿上から払い落とす→HP各ビデオ参照）。魚が暴れていても、リールを巻きながら竿先を下げれば、ラインテンションの喪失は起こらない。必要に応じて、魚の突っ込みを利用して竿先を下げるとか、竿の張りを緩める事により、突っ込みを誘発させ、竿先を下げるとかの工夫を加えても良

い。ループ体7が竿先を通過したら（通常2～3秒で通過）、再び竿を立てる。若し、魚が暴れておらず、リールハンドルから右手を離す事が可能なら、ギャフを落とす時、右手でロープを軽く握り、ロープを、手の中を通過させるのがよい。

⑤落とし込むと、ギャフセットは魚の口元に到達するので、ロープを右手で持って、肘を支点に、鯛のテンヤ釣りをする要領で、手先を上下させてやると（図6の状態）、程無くズシリと重みが掛かる（魚を見て操作する必要は無い・慣れたら魚の反転を狙ってアワセを入れる）。掛けるのに力を入れる必要は無い（ちゃんと掛かる、暴れる魚は何もしなくても勝手に掛かる→超簡単）。魚体は水中に在り、空中にはラインや仕掛け等障害物がある訳であるから（餌釣りの場合）、ギャフをあまり空中に跳ね上げないようにした方がよい（力を入れるのは重みを感じてから）。

⑥重みが掛かると同時に、ロープを引っ張り上げると、ガシリとギャフが食い込む（図7の状態）。針先の食い込みが、カエシ迄到達すれば、カエシ14が効いてギャフが外れる事はないが、食い込みが浅く、カエシまで到達していない場合は、魚が暴れる事により、針先が外れ、2～3回のやり直しもありうる。フックの食い込みがカエシ迄到達すれば、外れる事はまずないので、魚が大きい場合は、リールのドラッグを緩め、竿を置いて、両手で引上げを開始する。魚が小さい場合は、ドラッグを緩めないまま、右手で引っ張ったロープを、竿を持つ左手の人差し指又は親指で挟む事によって間合いを詰め、其のまま引き上げる事も出来る。

大暴れしている魚の口元にギャフセットを送り込む訳であるから、どのような事も起こり得る。どのような事も起こり得るが、致命的な事（＝ギャフが機能しなくなる事態）は起こらない。ルアーフックにガイド7が絡むのでは無いかとか、そういう細かい事を心配する必要は無い。絡んだところで、ギャフはちゃんと生きており、そんな事はお構いなしに、ギャフを掛ければよい。ギャフはフックが二本あるだけのシンプルな構造で、揺り動かす限り、フリースレイで自らの重みで下に位置し、機能し続けるから、ラインが切れない限り/フックオフしない限り、ギャフ掛けの目的は果たされる。

4) ループ体（7）を巻き体として道糸ごと竿に巻く方法（特許）→図8参照、→ビデオ大物用の使用方法

(https://www.youtube.com/watch?v=H_xy71ynPWU)

前4)項で述べた通り、ループ体の内周は、カラビナ内側長寸も含めて、約52cmであり、リールを竿にセットした状態で竿及びリールの外周の寸法が52cm以上になるリールには、ループ方式（竿尻通し方式）が実行できません（通常、ショアジギング青物用として使用されている中～大型スピニングリールは概ね通過可能、但しGTマグル用特大スピニングは不可）。本ループ体が自分のリールを通過できるかどうか、事前に確認したい場合は、紐で52cmの輪を作り、竿にリールをセットして、この紐が通過できるかどうか試す事により、購入前確認ができます。通過できないリールに対して、本システムを使用する場合、竿巻き付け方式（リールの前側で竿に巻く）を実行する事になります。

ループ体（7）の両端に設けてある小ループ部71、72の片方72（他端）をカラビナ2から外しておいて、取り込み時に、リールの前側で巻き体（ラッピングコード）として道糸ごと元竿110に巻いてカラビナ2に掛けてやる事ができます。ロープに関する準備は、3)事前準備で説明したのと同じです。先ず、前記小ループ部71、72の片方72を外します。其れにより、カラビナ2にはギャフ1のリング13を真ん中にして、手前側（ギャフの背側）にロープのループ51、先側（ギャフの前側）に線状となったコード7（巻き体＝ラッピングコード―竿尻通し方式に於けるループ体7）の小ループ部71（一端）が位置します。コード7の小ループ部71、72は手で持ってはカラビナ2の安全環25を通過出来るも、手を離せば安全環25に引っ掛かって其処で止まる寸法に製作してあります。

図8を参照し、小ループ部の一方71が安全環25の上側に位置しているのを確認してください（他方72はカラビナ2の外）。そうならないければ、一方71を、安全環25を超えて上側に移動させてください。ポジショニングは、カラビナ2の背側から前側に向かってロープのループ51、ギャフリング13、安全環25、ラッピングコード7のループ71となります（指はカラビナ2の背側のロープループ51とコードループ71の間に入れる事になります）。此の段取りをした上で、前記3)事前準備で詳述したのと同じ準備をします。魚が掛かって、ファイトを経て、竿下まで魚を寄せました。此処から、ギャフ掛けの全ムーブの開始です。

①基本体勢を維持したまま、腰を少し下げ、右手をリールハンドルから離し、右手の指を、ギャフセットの安全環付きカラビナ2のロープループ51とコードループ71の間に掛け、取る。

②次に、竿110を持っている左手の人差し指を開き、右手人差し指から、左手人差し指にカラビナ2を受け渡す（左手人差し指はロープループ51とコードループ71の間）。各部材は重みがあるので、ギャフのリング13とロープのループ51はカラビナの下側に位置し、コード7の小ループ部（71）は左手人差し指の前側で安全環25の上に引っ掛かっている。

③左手人差し指も合わせて竿110を握る。即ち、左手の他の四本の指は直接竿110を握り、左手人差し指はカラビナ2を間に挟んで竿110を握る事になる。

④次に、右手で、反対側72がフリーになってぶら下がっている巻き体＝ラッピングコード7を掴み、竿110を越えて、反対側に投げ下ろす。

⑤すると、コード7は、フリーの側72が竿110の向こう側に垂れ下がる。

⑥右手を竿110及び道糸130の下側から伸ばし、フリーになっている、コード7の他端側ループ72を掴む。

⑦摘んだループ72をカラビナ2の開口部に押し当てやると、コード7は適度の硬さがあるので、開口部がバネに抗して、開き、パチリと言う音共に、ループ72がカラビナ2内部に嵌まり込む(図8参照)。

⑧右手でカラビナ2の安全環25を回し、開口部をロックする。此れで竿を立てた状態を維持したまま、単独でギャフセットの竿110への取り付けは完了した。ループ72を完全環25の上側へ移動する。コード7はリール前でループを形成し、前項におけるループ体(7)と同じ状態になっている(竿尻通し方式でやった図4と近似の状態)。

⑨次に、カラビナ2から出たロープ5を、竿110を持った左手の人差し指に掛け、引き付ける(ループ体7は竿から浮いた状態)。

右手でロープの他端(ギャフの反対側)のループ52を掴み、其のループ52を、竿110を持つ左手小指に受け渡す(図5参照、此れを省略する場合もロープは片手の中を滑らす)。

此れで、落とし込みの準備は整った。落とし込みは、フリーフォールに近い形で一気に落とした方がよい。左手人差し指で引き付けたロープ5を解放し、其れにより、ギャフに勢いをつけて、竿上を滑り落とさせ、ラインガイドを通過させる。右手でリールハンドルを回しながら、竿先を下げ、ギャフを竿伝い、ライン伝いに一気に落とす。魚が暴れていても、リールを巻きながら竿先を下げれば、ラインテンションの喪失は起こらない。必要に応じて、魚の突っ込みを利用して竿先を下げるとか、竿の張りを緩める事により、突っ込みを誘発させ、竿先を下げるとかの工夫を加えても良い。ループ体(7)が竿先を通過したら(通常2~3秒で通過)、再び竿を立てる。若し、魚が暴れておらず、リールハンドルから右手を離す事が可能なら、ギャフを落とす時、右手でロープを軽く掴み、手の中を通過させるのがよい。

⑩以降は、前項4)使用方法の⑤以降と同じである。＜ロープの落とし方に関しては、ロープを片手で支え、掌の中を滑らせるやり方でやってもよい・・・各ビデオ参照＞

6) 使用上の注意

A) 本ギャフをバッグに入れて、カラビナ等で腰(ボディ)に装着する事は、移動中であれ、釣り中であれ、大変危険ですから、禁止します(厳禁)。此れを腰にぶら下げ、テトラの上で釣りをやって、魚が掛かったら、ギャフを取り出して、取り込もうなど、と考えるのは論外、絶対にやってはいけません。転倒又は転落し、ギャフ上に体重が掛かった事態を想定すれば、最悪、怪我では済まない事も起こりえます。此れは、イカギャフ(肝心な所が針金で止めてある・・・体重が掛かればギャフが壊れるだけと推定できる)とは違います。シース=針先カバーがしてあったとしても、此れは体重を浴びせても、尚其れを保護するだけのプロテクション強度はありません。転倒、転落が有り得る状況下で、本品を体(ボディ)の近くに位置させる事(転倒、転落により体重がもろにギャフに乗っかり得る使い方、携行の仕方)は絶対に禁止です。

B) ギャフ掛けのムーブに入る時は、ドラッグを少し緩めてバランスを崩す事が無い様にしてから、入って下さい。

C) ギャフセットを手首に通す時はループ体7に背側から通して二本のフック12の針先が出来るだけ指先側(=魚側)を向くようにしてください。

D) ロープの他端側(図5の52)を体の何処かに固定する事は、危険ですから、してはいけません(魚に引っ張られてバランスを崩す危険があります)。→固定する時はクーラー等荷物に。

E) カラビナに付いて説明します。本カラビナはアクセサリーカラビナ8φ(クライミング用ではなく)です(この形状をD型カラビナと呼びます)。カラビナもギャフも構造的に片持ちである事に変わりはありませんが、D型カラビナは、軸(縦方向長軸)の直ぐ近くにロープ等が来るように設計しており、軸から荷重点までの距離が小さく、比較的小さなトルクしか掛からず、結果的に、見た目より、高い荷重に耐えられます(距離が長いギャフに比較して)。ロープ5を引っ張れば、フリープレイが行われる限り、一外的要因が作用しない限り、カラビナ2の縦方向の、軸に近い両コーナーに、ループ51とリング13が其々来て、8φアクセサリーカラビナでも、高い荷重に耐えられます(此れを縦荷重と言います)。縦荷重として作用する限り(一普通に操作する限り縦荷重になる)、30kgや40kgの荷重で壊れる物ではありません。正常な使い方が行われている限り、ゲートのピンには荷重は全く掛かりません。ピンは僅か2mm程ですから(クライミング用でもピンは3~4mm)、ゲートを横に引き開く様な荷重(横荷重)を掛けてはいけません。此処で、どういう事が行われたとき横荷重が掛かり得るか、を説明します。カラビナの安全環25の外径は12mmで、リング13の内径は20mmです。普通に操作する限り、カラビナ2はリング13の中を自由に行き来できます。然し、たまたま、ゲート上安全環25の横に接してリング13が位置している時、持ち上げられると、リング13が安全環25に引っ掛かった様な形でギャフ(=魚)が持ち上げられ得ます。そうなる、ピンに横荷重が掛かり、魚が大きい場合、30~40kgでなくても、10~15kg位の魚でも、ピンが飛ぶ可能性はあり得ます。ですから、ユーザーが先ずすべきは、ギャフが掛かったら(ギャフが掛かるのは当たり前)、むやみに引き上げるのではなく(掛かったらまずアワセを入れれば、カエシが効いて外れません・・・慌てる必要はありません)、変な姿勢になっていないか、目視確認すべきで

す。ロープ、カラビナ、ギャフが一直線になっていればOK。変な姿勢になっていれば、一旦力を抜いて動かせば直ぐに正常姿勢になりますから、そしたら、引上げOKです。

7) 保守管理 →ビデオ使用方法 22、技術編参照

本品はステンレスですが、使用後放置すれば、含有カーボンの影響により、多少の錆がきます。Stainless とは錆びないという意味ではなく錆びにくいという意味です。ステンレスにはその組成により、多くの鋼種があり、本品フック部は高強度特殊鋼を使用しておりますが、本鋼種は、一般的な鋼種（SUS304，等）に比較して、強度面に於いて勝りますが、防錆力に於いて劣ります。釣行後は速やかに水洗いをし、乾いた布で水分を拭き取って、防錆油を吹き付けた後、其れを乾いた別の布で軽めに拭き取り、保管する事をお勧めします。その時点で既に錆がきていた場合はサンドペーパー等で錆を落とした上で同作業を行ってください。釣行前には必ず針先のチェックを行い、鈍っていれば、必ずヤスリ又は砥石等で針先を研いで、油（刀剣用防錆油がベスト）を針先に塗布して、持参してください。針先が鈍って魚体表面を滑ってしまつてはフッキングしない訳です。本ギャフでは針先の鋭さは手の甲に当ててチクリと痛みが走る事が必要です（→針先要件はビデオ使用方法 22、技術編に詳述）。磯でなく堤防であっても、コンクリート表面には固い小石が混ざられている事が多く、凹凸が激しいです。魚の重みが掛かった状態で、フッキングしていない残りのフックが表面を擦りながら、上がってくることになる訳ですから、ギャフは過酷な仕事をさせられます。ユーザーの、針先の鋭さに対する感性が無かったら、本ギャフはその能力をフルに発揮できません。本ギャフはフックの針先を内側に少し曲げています。本ギャフでは、そのシステムの威力が絶大である為、針先の張り出しや、フックの本数に頼る必要はありません。フックの針先が少し内側に向いている為（其れでもちゃんと掛かります）、魚引き上げ時には、リング13が起き（堤防又は堤防表面から離れ）、フッキングしていない残りのフックの針先は表面を擦るのではなく、表面から少し浮く（離れる）形となります。此れにより、フッキングしていない残りのフックは、表面の小規模な凹凸は、擦るのではなく、かわすことができます。此れは針先の鈍りを抑えるのに役立つでしょう。磯での使用も可能となりました。本ギャフは、掛けるのはシステムの力で掛け、引上げ時の障害物の回避はギャフの構造の工夫で行います。以上の工夫をしている訳ですから、高い感性を持って針先の鋭さに常に注意を払ってください。

8) システム比較

本シーバス青物取り込みシステム（本品）と、一般魚取り込みシステム（別品）、中軸－青物取り込みシステム（別品）、一般ギャフ兼用型取り込みシステム（別品）、青物取り込みシステム（別品）との仕様比較は下記の通りです。

システム	サイズ	耐強度 kg	ロープ径 mm-長さ m	適用高距 m	適用範囲 kg	最適範囲 kg	用途
一般魚用	小	25	4－13	3－12	0.7－10	1.3－6	浮き釣り、ライトルアー
本品	中	30	5－13	3－12	1.5－16	2－10	ライト、ミディアムルアー
中軸青物	大	60	6－13	3－12	2－20	3－15	カゴ釣り、本格SWルアー
兼用型	大	60	6－13	3－12	2－20	3－15	カゴ釣り、本格SWルアー
青物用	大	70	6－15	3－14	2－20	3－15	カゴ釣り、本格SWルアー

注）適用高距最低値は、餌釣りは3mでルアーは2mです

製造販売、服部商会
〒862-0901 熊本県熊本市東区東町 4-16-9-406
TEL： 096-365-0269
E-Mail：